

令和 8 年度 埼玉県 英語教育改善プラン

目標

学校段階に応じた目標達成に向け、発信する力の強化のために指導力向上を図る
(小学校：英語に慣れ親しみ、英語で伝えたいという意欲の育成)

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①児童の英語による言語活動の取組促進
授業の半分以上実施の割合(R5:94.0%)
- ②CAN-DOリストの活用促進
設定の割合 (R5:79.3%)
公表の割合 (R5:62.9%)
把握の割合 (R5:76.4%)
- ③学習者用デジタル教科書の活用促進
実施した学校の割合(R5:98.6%)

未だ改善が必要な点

- ①児童の英語で発信する力を高める言語活動を通して指導することの充実
75%以上の時間言語活動の時間の割合 (R5:57.5%)
- ②言語活動の充実のための学習者用デジタル教科書を含むICT活用
児童がICTを活用して「話すこと」の授業を実施した学校の割合(R5:88.6%)
- ③小中との連携によるカリキュラムや学習到達目標などの設定
小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定の割合(R5:20.0%)
- ④R6全国学力・学習状況調査結果より、英語学習への意欲に課題がみられる。
「英語の勉強は好きか」と回答した児童の割合 (R6:69.9%)

2. 要因分析

【改善が進んだ要因】

- ①②③小中学校等英語指導パワーアップ講座において、学習指導要領で求められる授業づくりについて、有識者からの指導を踏まえて、受講者同士の協議、その後の授業実践と報告・共有を通して、授業改善が進んだと考えられる。(受講者アンケート回答から：目的・場面・状況の設定を工夫したい等の感想)
- ①②③教育課程研究協議会において、発表者による指導事例に関する協議を通して、「英語を使いながら学ぶ」など、言語活動への理解が進んだ。

【改善が必要な要因】

- ①④単元など内容等のまとまりを見通した単元計画を設定すること、及び児童が自分事として言語活動の目的等を意識することが不十分である。
- ②学習者用デジタル教科書を含むICTの効果的な活用に関する研修機会が不足している。
- ③小中のカリキュラム等の連携不足により、中学校教員の小学校外国語教育に対する理解が深まっていない。
- ④個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させながら、児童が主体となる授業改善が進んでいない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③④小中学校等英語指導パワーアップ講座を実施

・令和 4 年度小学校学習指導要領実施状況調査結果を踏まえた授業改善の視点を学ぶ。

・話すこと〔発表〕の指導の充実により、指導力向上を図る。

①②③④英語指導方法改善事業の実施

- ・学習者用デジタル教科書を活用した効果的な指導方法の開発・実践
- ・ICT（一人一台端末を含む）の活用を通して、英語に慣れ親しむ機会を増やしたり、児童のコミュニケーションに対する関心・意欲を高めたりすることに資する取組を発信する。
- ・小中連携の視点により、発信する力を高める系統的な指導力を研究し、その実践を県内に周知する。

①②③④教育課程研究協議会の実施

①②③小学校英語専科教員研修会の実施

①②④教育課程実践追加事例の周知

②学習者用デジタル教科書活用等研修会の実施

③④年次研修において他校種の実践を紹介し、校種間連携に関するテーマに情報交換や協議する小中高の希望者による研修を実施する。

【小学校英語専科指導に係る加配定数の活用に係る事項】

〈一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組〉
公立小学校教員採用候補者選考試験において、下記の資格・実績がある者は10点の加点

- ・英語の中学校教諭又は高校教諭の普通免許状
- ・ALTの実務経験が2年以上・CEFR B2相当取得者

令和 8 年度 埼玉県 英語教育改善プラン

学校段階に応じた目標達成に向け、発信する力の強化のために指導力向上を図る
(中学校：自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成)

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7: 56.8% ⇒ R8: 58%)

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
 (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①言語活動の理解と実施促進 (全国学調生徒質問紙調査より)

聞くR7:85.2% 読むR7:85.8%
やり取りR7:63.7% 発表R7:83.6%
書くR7:87.2%

②小中連携の実施促進

情報交換の割合(R5 76.9%)
交流の割合 (R5 51.3%)

①生徒の英語力向上

(R6:52.2 %⇒R7:56.8%)

②教員の英語力が改善

(R6:44.5 %⇒R7:51.4%)

③言語活動の充実のための学習者用デジタル教科書を含むICT活用

「発話や発音などの録音・録画」を実施した学校の割合(R7:84.4%)

④小中連携、中高連携による指導法の継続

小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定の割合(R5 20.0%)

中高連携 (R5 11.0%)

⑤R5全国学力・学習状況調査結果より、話すこと（やり取り・発表）書くことによる発信力に課題がみられる。

	やり取り	発表	書く
全国	14.5%	4.2%	23.4%
県	13.8%	5.1%	22.3%

2. 要因分析

【改善が進んだ要因】

- ①小中学校等英語指導パワーアップ講座において、学習指導要領で求められる指導について有識者から直接説明を受け、参加者同士で協議を行うことで理解が進んだと考えられる。（受講者アンケート回答から：目的・場面・状況の設定を工夫したい等の感想）
- ②教育課程研究協議会での行政説明が各教員に確実に伝わったと考えられる。

【改善が必要な要因】

- ①⑤言語活動を通して 4 技能を総合的に高める授業改善が不十分である。
- ①⑤生徒が実際に英語を用いてコミュニケーションする場が不足している。
- ②教員が英語力を高める機会の不足している。
- ③ICT活用（学習者用デジタル教科書を含む）の効果的な活用に関する研修機会が不足している。
- ④⑤カリキュラム連携等の具体的な連携方法や小学校外国語への理解が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③④⑤小中学校等英語指導パワーアップ講座の実施

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた指導実践を学ぶ。
- ・小学校での実践に触れ、小中連携の視点により、指導法の継続から指導力向上を図る。
- ・英語力の高い教員の授業の効果を周知する。

①②③④⑤英語指導方法改善事業の実施

- ・ICTや学習者用デジタル教科書を活用した効果的な指導方法の開発・実践する。
- ・小中連携の視点により、発信する力を高める系統的な指導力を研究し、その実践を県内に周知する。
- ・ICT（一人一台端末を含む）の活用を通して、授業内外において生徒が英語を使う機会を増やし、発信する力の教科に資する取組を発信する。

①②③④⑤教育課程研究協議会の実施

③学習者用デジタル教科書等活用研修会の実施

- ④年次研修において他校種の実践を紹介し、校種間連携に関するテーマに情報交換や協議する小中高の希望者による研修を実施する。

- ②国の特別受験制度を活用した英語資格・検定試験の受験を促していく。

令和 8 年度 埼玉県 英語教育改善プラン

「学習指導要領の円滑な実施に向けて、生徒の英語力向上と 4 技能のバランスが取れた教員の英語指導力養成を図る」

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 47.0%、B1以上 24.6% ⇒ R8 : A2以上 50.0%、B1以上 25.0%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が改善
(R6:21.6%⇒R7:24.6%)

未だ改善が必要な点

① CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合について、改善の余地がある。
(R6:48.5%⇒R7:47.0%)
②「英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている学校の割合」について、改善の余地が見られる。等
(R6:28.7%⇒R7:21.7%)

2. 要因分析

①②
・教育課程研究協議会における調査結果のフィードバックにより、現状・課題の共有や生徒の英語力の見取り方、生徒の英語による言語活動に関する情報提供を行った。
・授業研究支援訪問を行い、指導主事が授業を観察し、指導・助言を行った。

① 資格取得者の割合は増加したが、生徒の英語力の見取り方についての周知が不十分であることが要因と考えられる。
② 生徒が英語での説明を理解しないことへの不安等、教員自身にとって英語使用のハードルが高くなっている可能性がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

教員の英語力、指導力向上と生徒の英語力向上は密接な関係があるため、以下の取組を行っていく

①②
・教育課程連絡協議会や校長会等の機会を捉えた調査結果のフィードバック（埼玉県の英語教育の現状や課題の共有、適切な見取り方や生徒の英語による言語活動の情報提供）
・授業研究支援訪問等の活用による、指導主事による各校における授業改善支援
・2年次英語教員フォローアップ研修における、県立高校における英語教育の実施状況や課題の共有、英語教員の英語教育に係る高度な知識の習得とその専門的指導力の向上
・年次研修等の内容のさらなる充実
①
・教育課程連絡協議会や校長会等の機会を捉えた調査結果のフィードバック（埼玉県の英語教育の現状や課題の共有、適切な見取り方や生徒の英語による言語活動の情報提供）
②
・英語担当教師の英語使用の効果や生徒の習熟度に応じた具体的方法等について、教育課程研究協議会における説明や教科指導に関する研修会等において改めて周知するとともに、好事例の紹介等を通じて授業内での教員の英語使用の浸透を図る。

埼玉県教育委員会

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	47.3	50	48.5	52	47	50	50	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	20.7	25	21.6	25	24.6	25	30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		65	35.3	50	45.1	55		60	65	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		50	21.6	35	21.1	40		45	50	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	86.1	100		100		100	100	
		公表（％）	100	71.5	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	55.7	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		75	76.8	80	79.2	83	82.6	84	85	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		65	24.4	40	28.7	45	21.7	30	35	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		52	48.1	52	52.2	55	56.8	58	60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	81.6	100		100		100	100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	95.8	100		100		100	100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100	100	
		公表（％）	100	87.9	100		100		100	100	
		達成状況の把握（％）	100	94.6	100		100		100	100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	41.1	43	44.5	45	51.4	47	50	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100	94.5	100		100		100	100	

校種		2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	79.3	85		90		100	100	
		公表（％）	100	62.9	70		80		90	100	
		達成状況の把握（％）	100	76.4	80		85		90	100	